

獣害対策の方法について

—農業指導センターでの事例報告—

今回のテーマは、近年、甚大な被害が出ている「鳥獣害対策」についてです。

作物を栽培する上で、病害虫の被害については、通常の定期防除等で最小限度に防ぐことは可能ですが、園外から侵入するイノシシやサル、ヒヨドリ等の被害は防ぐことが難しい状況にあり、農作物への甚大な被害は、農家にとって死活問題となっています。

そのような中、松山市農業指導センターでは、様々な資材を利用して「農作物を獣害から守る対策」を実施していますので紹介します。

1. サル対策ネットの活用事例

【事例1】 にわとり飼育用の「亀甲金網」を使用する方法

外周には 48.6 mm の太い支柱、内側には 22 mm の支柱を使用して施設を建設し、全面に亀甲金網を取り付けました。
これにより、鳥を含む獣害から果実を守ることができました。
建設費はやや高くなりますが、48.6mm の支柱を使用することで、長く利用できる等のメリットがあり、対策としては有効です。



亀甲金網使用施

【事例2】 既存のハウスを補強する方法

ビニールハウスで農作物を栽培する場合、イノシシには鉄柵等を利用して対策を講じていますが、サルの場合には、ビニールを破って侵入する事例もあるので、ハウスだからと言って安心ができない状況です。

そこで、「猿ガードネット」をビニールの上から被覆して侵入を防止することにしました。

猿ガードネットの大きさは4m×20mで、大きめのハウスでは、2枚を繋ぎ合わせて使用します。

価格はメーカーによって多少異なりますが 10,000 円前後で購入できる資材です。



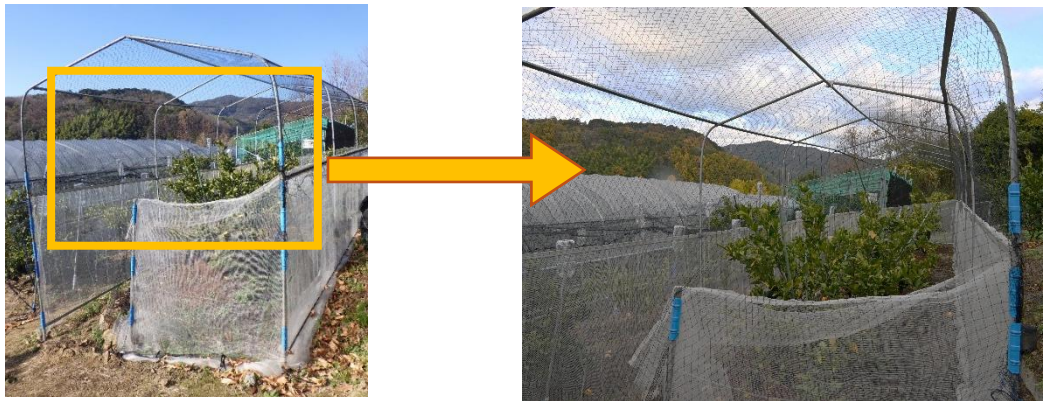
猿ガードネット設置



猿ガードネット設置(拡大)

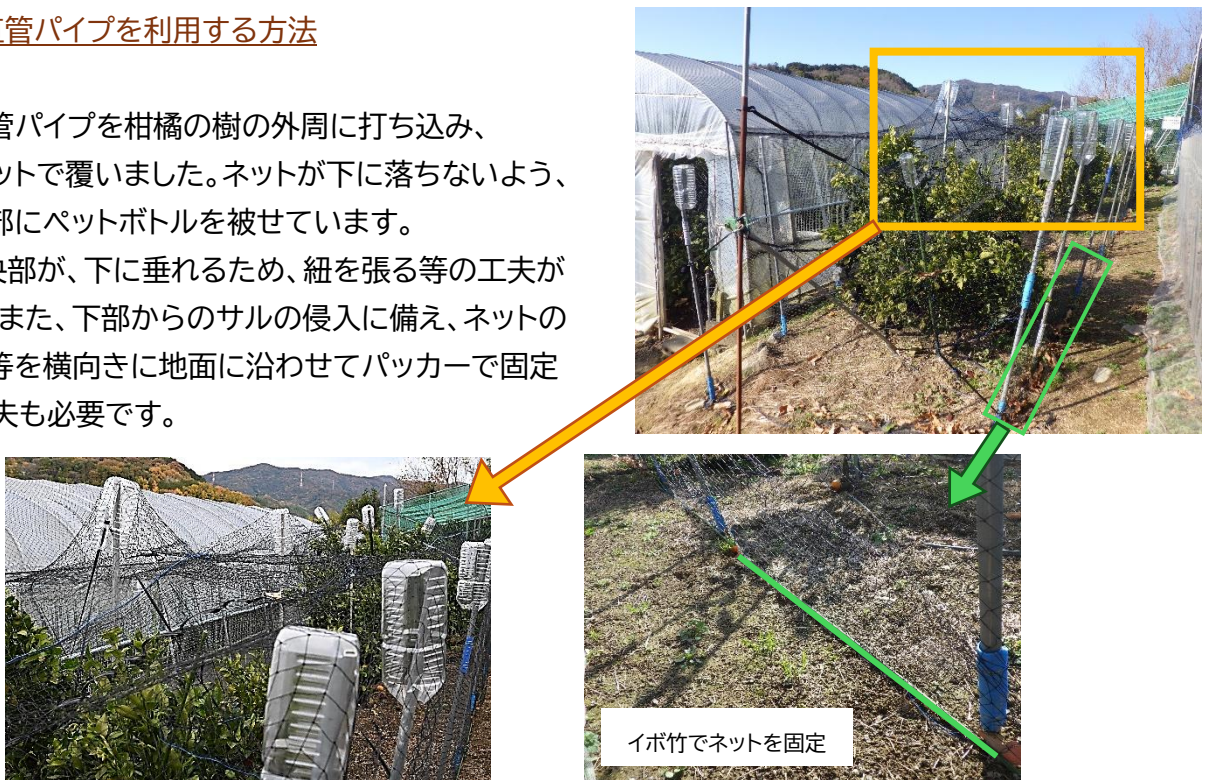
【事例3】簡易資材を利用する方法

きゅうり栽培に使用するアーチパイプを利用しています。19 mmパイプでアーチを作り、22 mmパイプを上部に使用し、側面はビニペットを取り付けて、ネットがずれないように固定して被覆しています。



【事例4】直管パイプを利用する方法

22 mmの直管パイプを柑橘の樹の外周に打ち込み、樹全体をネットで覆いました。ネットが下に落ちないように、パイプの上部にペットボトルを被せています。ネットの中央部が、下に垂れるため、紐を張る等の工夫が必要です。また、下部からのサルの侵入に備え、ネットの裾にイボ竹等を横向きに地面に沿わせてパッカーで固定する等の工夫も必要です。



2. 電気柵等を利用したサル対策

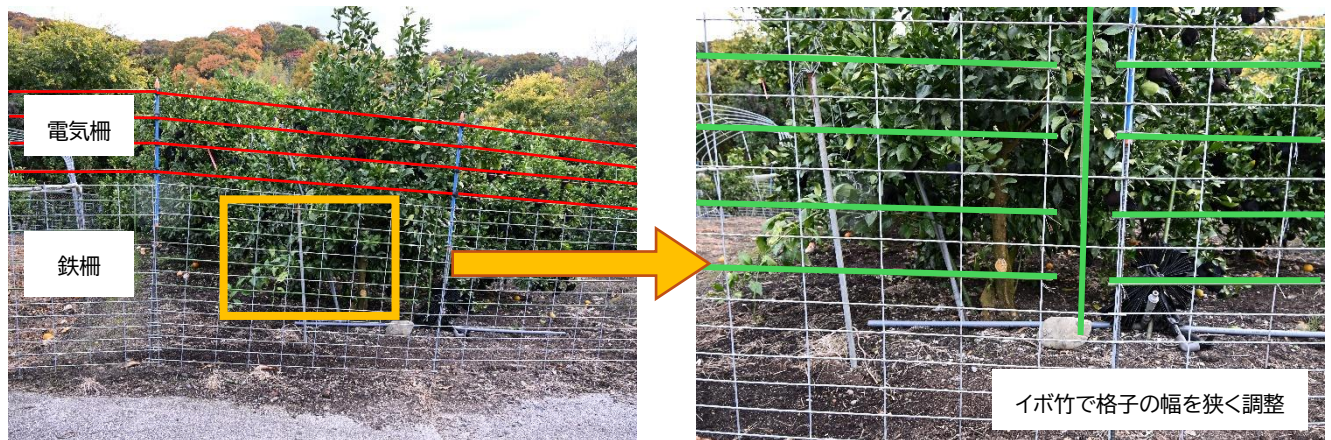
【事例1】電気柵を設置する方法

通常、イノシシ対策の電気柵の設置では、電線を4段程度設置すれば、ほぼ効果がありますが、電線を張る高さによって侵入する恐れがある(一番下の段が高いと下から侵入、低いと飛び越えて侵入)ため、電線の本数(段の数)を多くする必要があります。通常よりも電線の本数を増やして7段にしました。地表から最上段までの高さは136 cmになりました。



【事例2】 鉄柵と電気柵を併用して設置する方法

下からの侵入防止のため「鉄柵」を設置し、鉄柵の上部には、上からの侵入防止のため「4段の電気柵」を設置しました。鉄柵については、イノシシ専用のものを使用したため、鉄柵の下部は格子の幅が狭く、上部は幅が広いことから、子猿の侵入に備え、イボ竹を間に取り付けて格子幅が狭くなるよう調整しました。



【事例3】 サル専用ネットを利用する方法

「事例 1:電気柵を設置する方法」及び「事例 2:鉄柵と電気柵を併用して設置する方法」との効果を比較するため、サル専用のネットを設置して、実証実験を行っています。下の写真のネットのオレンジ色の網目部分に電気が流れています。

今年度は、柿等のサルのエサになる作物が豊作で、山間部に食料が豊富にあることから、R8 年1月時点では柑橘園への被害は出ていないものの、去年は12月下旬～1月上旬にかけて柑橘が全滅状態になったことから考えると、越冬品種は被害を受けることが十分予想されるため、対策を講じる必要があります。



以上が、農業指導センターで行っている獣害対策の比較試験の内容です。

今後は、比較試験の状況確認を行いながら、更なる獣害対策を検討し、農業者に向けて情報発信を行なっていきたいと思います。

農業指導センターでは、比較試験の圃場を展示していますので、ご興味がある方は、是非、ご来園いただき、実際に獣害対策園地をご見学いただけたらと思います。